

平成21年度第4回目 東三河ふるさと公園自然観察会記録

1. 事業名	東三河ふるさと公園 第40回自然観察会
2. 日時	平成21年7月19日(日) 晴れ09:300~12:00
3. 場所	東三河ふるさと公園 豊川市御油町
4. 参加者	坂口、柴田、高橋、高林(節)、富安、中島(芳)、林、原田(文)、星野(京)、 星野(芳)、牧本、間瀬、望月 13名
5. 一般参加者	104名(内子供 名)
6. 目的	平成21年度 第4回(通算40回) 東三河ふるさと公園自然観察会
7. 観察のコンセプト	・夏だ、ふるさと公園で昆虫を探してみよう、観察しよう。 観て、聴いて、嗅いで、食べて、触って感じよう (ふるさと公園の森や水辺で、生き物を観察しよう。)
8・反省事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ベイトトラップや樹液トラップは普段探しても見られない昆虫たちが見られたが、今年はその数量が少なかった。 ・来月(8月)は、「草原の虫を探そう」をテーマに行うが、子供達については自由に採集し、説明は行わない方が良いのではないかと。ただし夏休みの自由研究等で質問されれば解説を行うこととする。 ・子供と大人を区分けした方が良いのではないかと。ただし、子供の保護者は、子供と一緒に行動する。 ・8月8日(土)~16日(日)AM9~PM3「自然のものを使って作ってみよう」をテーマにドングリ工房を開設するので協力をお願いします。(公園管理事務所より)
9. 観察行程	<p>09:00: 会員集合 受付、放送その他の庶務は公園管理者が行う。</p> <p>09:30: 観察会開始 公園管理事務局長 挨拶 東三河自然観察会副会長挨拶(間瀬)</p> <p>09:35: ふるさと公園の森で生き物を見つけよう。 (多くの目で見て、自然を見つけよう。)</p> <p>09:40: 森の観察(夏色の森を観察しよう。)</p> <p>09:45: ふるさと公園のトンボについて</p> <p>10:00: 森の虫を観察しよう。(ベイトトラップの観察)</p> <p>10:40: メジロ、コゲラの観察と夏鳥の話題</p> <p>11:00: タケニグサ、ヤブカンゾウの観察</p> <p>11:20: 公園管理者挨拶</p> <p>11:30: カブトムシ進呈の抽選とアンケート 流れ解散</p>

10. 鳥類

1) 確認できた野鳥

キビタキ、ウグイス、ホオジロ、メジロ、セグロセキレイ、ツバメ、ヒヨドリ、ムクドリ、コゲラ、ハシボソカラス、シジュウカラ、キジバト、スズメ

(中島(芳)7月17日確認)

11. トンボ

1) 確認できたトンボ(中島(芳)7月17日確認)

オニヤンマ、ギンヤンマ、ウチワヤンマ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、コフキトンボ(多数)、ショウジョウトンボ、コシアキトンボ、クロイトトンボ、キイトトンボ(多数)、アオモンイトトンボ、マイコアカネ、チョウトンボ(1頭のみ)

12. トラップ採集結果

1) No.1トラップ(楠の下)

樹液トラップ・・・カブトムシ♂×1、クロゴキブリ×1
ベイトトラップ・・・ミカワオサムシ×1、アリの仲間、

2) No.2トラップ(アブラギリの下)

樹液トラップ・・・なし
ベイトトラップ・・・ミカワオサムシ×1、ゴミムシ×1

3) No.3トラップ(道を挟みアブラギリの南側)

樹液トラップ・・・なし
ベイトトラップ・・・なし

4) No.4トラップ(クサイチゴ群落周辺)

樹液トラップ・・・なし
ベイトトラップ・・・なし

5) No.5トラップ(林の中)

樹液トラップ・・・なし
ベイトトラップ・・・なし

☆ ベイトトラップの餌・・・牛脂肉

☆ 樹液トラップの餌・・・酒×1.8リットル(300ml)、
酢×600ml(200ml)

白砂糖×750g(250g)

昨年度は樹液トラップに、多数のカブトムシが採集できたが、今年は1箇所のみであった。

またベイトトラップについても、ミカワオサムシ2匹とゴミムシ1匹のみであった。年毎に変動があるようだ。今後継続していくと少しずつ判明してくるのではないか。



ミカワオサムシ

13. トンボの観察

トンボの起源は古く、古生代の石炭紀まで遡る。当時の地球上は暖かくじめじめしていて、地表はロボックやフウインボクなどの大森林におおわれていました。そのような祖先の遺伝子を受け継ぐのか、現在でも、高温多湿な地域と時期に多く出現します。

1) トンボの出現時期

トンボの出現時期は種属によりほぼ時期が決まっています。

7月は夏のトンボの最盛期です。特に止水域（池、沼、田等）のトンボが目につきます。

2) トンボの出現する場所

- ・ 止水域（池、沼、田等）
- ・ 流水域（川、湧き水のある場所）

3) 羽化の観察

夜間に行われることが多いので、マムシ、蚊に注意するとともに、落水、転倒に注意が必要
羽化は特に感動する光景です。ふるさと公園でも早朝から10時頃までなら十分観察できます。

4) 昼間の観察方法

池の中等にガマや水草の茂る場所で、長靴が沈みこまない程度の水深場所を選び、じっくりと動かずに周囲を見ると、必ずトンボがいます。

- ア) 一番低い場所・・・小さなイトトンボの仲間が見られます。動くと逃げ出すが、同じ場所に引き返すので、他のトンボを見つけながら気長に待つとよいでしょう。
- イ) 少し高いところ（2m程度）・・・シカトンボ、ショウジョウトンボ、コキトンボ等の中型のトンボが縄張りを持ち、パトロールを行っています。10分ほどパトロール飛行を行い、少し高い見通しの良い場所で翅を休めます。縄張りに他の雄が侵入すると勢いよく飛び出し追い出します。雄は縄張りに来た雌と交尾し産卵場所に誘導します。このとき産卵護衛をするトンボや、連節して産卵護衛をする種類が見られます。
- ウ) 高く開けた場所・・・オニヤンマ、ギンヤンマ、ウチワヤンマ等の大型のトンボは縄張り範囲も広く、修景池では5～6匹が、それぞれの場所で縄張りを持ちます。しかし産卵しヤゴが育つ条件の良い場所は多くなく、条件の良い場所を奪い合う争いが観察できます。このとき激しくぶつかる翅音がし、姿が見えなくなるほど2匹は絡みながら上昇していくのが観察できます。まるで戦闘機を見ているようです。やがて勝ち誇った雄は元の縄張りに戻り何事もなかったように、パトロールを行う姿を見かけます。
- エ) 写真撮影について・・・動き回らずに、撮影しようとするトンボの性質に、自分を合わせることで。チャンスは見逃さず、遠くても撮影しておくとういでしょう。

☆止水域のトンボの生活場所の例

1番下の場所

少し上の場所

2m程の場所

2mより上の場所に多い



クイトンボ



キイトンボ



コキトンボ

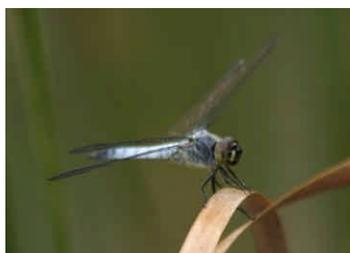


ウチヤンマ

(参考) 観察できた花等



クロイトトンボ



コフキトンボ



ショウジョウトンボ



オオシオカラトンボ



ウチワヤンマ



キイトトンボ



アオモンイトトンボ



コフキトンボ



シオカラトンボ



マイコアカネ



オニヤンマ



トキリマメ



シロダモ



ミヤマイ

			
<p>シブバキとハンゲショウ</p>	<p>ヤナギモ??</p>	<p>ヤブミョウガ</p>	<p>ヤブカンゾウ</p>
			
<p>ヒロハンモツケ</p>	<p>ヒツジグサ</p>	<p>リョウブ</p>	
<p>(参考) 観察会の様子</p>			
			
<p>主催者挨拶</p>	<p>多数の子供達</p>	<p>間瀬副会長挨拶</p>	
			
<p>樹液トラップやベイトトラップで採集できた虫の観察 (参加者104人と多数でした。)</p>			

備 考

- ・今年はまだ、梅雨明け宣言がされていない。しかしこの1週間は真夏日が続き暑い。
- ・参加者104名余（内子供 人）で小さな子供から小学校高学年の子供まで幅広く、しかも多数の参加があった。
- ・虫かご等を持参したが、採集の機会がなかったのは残念でした。
- ・参加者が多く、班別を考慮したが、ベイトトラップ等の準備の都合で班分けができなかった。このため、長蛇の列となってしまった。



キイトンボの産卵風景

ふるさと公園の修景池にはキイトンボが多数観察できる。